
仮面ライダーW×真・恋姫†無双 ～新たなる探偵と恋姫達～

ナジャ

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

仮面ライダーW×真・恋姫†無双
達々
〈新たなる探偵と恋姫

【Nコード】

N9153Y

【作者名】

ナジャ

【あらすじ】

仮面ライダーWと真・恋姫†無双のクロスオーバー作です。初めてなので駄作ですが感想くれたら嬉しいです。

第1話 「Sの思惑／異世界への扉」(前書き)

駄文ですがどうぞ

12月9日 ガイアメモリの名称を変更。

第1話 「Sの思惑／異世界への扉」

鳴海探偵事務所・屋根裏部屋

く???side

【ピピピッ!ピピピッ!ピッ】

ガチャ

?「んん〜もう朝か、そろそろ父さんを起こしに行かないと」

僕の名前は左 瑛人^{あきと}。

聖フランチェスカ学園に通う2年だ。

風の街「風都」にある「鳴海探偵事務所」で探偵をしている。

今はある事件を調査している。

?「やあ、瑛人君。おはよう。」

瑛「あつ!フィリップさん。おはようございます。」

この人はフィリップさん。

父の相棒で「地球の本棚^{ほしほし}」に検索をかけることで、あらゆる知識、

技術、体術などの取得・実践する事ができるデータ人間らしい。

僕が知っている頃から姿形がまったく変わらないから本当なのだろう。

瑛「フィリップさん。父さん起きてますか?」

フィ「翔太郎ならまだ寝てるよ。さすが惰眠むさぼ郎君だね。」

瑛「そうですね（笑）」

？「誰が惰眠むさぼ郎だ！ 瑛人も肯定してんじゃねえ！」

姿で僕たちの会話に割り込んで来たのが惰眠むさぼr・・・もとい
我が父の左 翔太郎。

ハードボイルドな探偵を目指そうとするも、

僕やフィリップさんにハーフボイルドと言わせるほどの残念な探偵
である。

最も今は、第一線を退いて、探偵業を僕に任せている。

フィ「やあ、おはよう翔太郎。」

瑛「おはよう父さん。」

翔「ああ、おはようフィリップ・瑛人。瑛人、事件の方は順調か？」

瑛「手がかりが少ないから、あまり進んで無いんだよね。ドーパン
トやガイアメモリ絡みじゃないと良いんだけど。」

ここで少し説明しておこう。

ガイアメモリとはあらゆる「地球の記憶」を収めた全長10cmほ
どのUSBメモリ型の生体感応端末で、人体に挿入することで人間
を怪人へと変身させるアイテムだ。

ガイアメモリは、超常的な能力を手に入れる反面、使用者はメモリ
の有害毒素に徐々に侵食され、ドライバーというフィルターが無い
限り、感情や精神が次第に歪んでいってしまう。

父さんとフィリップさんは、ダブルドライバーとガイアメモリを使って仮面ライダーダブルWとなり、ドーパントと戦っていた。

翔「無茶だけはするなよ。」

父さんが真剣な顔で言う。

瑛「わかってるよ。」

僕も真剣な顔で言うと、

翔「じゃあさっさと着替えて来い。今日は照井んとこの嬢ちゃんとデートだろ。」

フィ「実に興味深いね。詳しく聞かせてもらっても良いかい？」

先ほどの真剣な顔とは対象的にニヤニヤしながら僕を冷やかす父さんとフィリップさん。

瑛「違うよ！奏かなではただのパートナーだから。今日も一緒に“北郷一刀失踪事件”の調査だよ！」

そう 僕が今、扱っている事件が“北郷一刀失踪事件”。

事の詳細は一週間前の放課後。

・
・
・

僕の親友の1人である及川君が、僕のクラスに、息を切らせながら走って来た。

及「アッキー大変や!!」

瑛「どうしたの？及川君。」

及「かずピーが・・・かずピーが!」

瑛「一刀がどうかしたの?!」

及「かずピーが歴史資料館からいきなり消えたんや!」

瑛「何だって!?!本当なの?」

及「ホンマや!さつき家にも電話したけど、まだ帰って無いらしいねん。」

瑛「わかった!僕も調べてみるよ。」

及「頼むで!探偵さん。」

瑛「任せて!」

• • •

こんなやり取りがあつて、一週間。

まだ手がかりらしい手がかりを見つけられていない。

一刀、無事だと良いんだけど。

するとその時、

【ピンポーン】

翔「おっ！嬢ちゃんが来たんじゃないのか？」

フィ「僕達が対応しておくから、瑛人君は早く着替えて来なよ。」

瑛「わかりました。ではお願いしますフィリップさん。」

フィ「任せて。」

奏の対応をフィリップさんに任せて、屋根裏に戻り、着替え初める。父さんに似たのか、私服は黒を基調とした物が多い。今日の私服も黒を基調とした物だ。

瑛「よし、これで準備完了。あとは……つと忘れるところだったよ。」

僕の勉強机に置いてあった、昔父さんに一流の探偵として認められた時にもらった黒の帽子だ。

僕は仕事の時は必ずこの帽子を被る。

瑛「これで今度こそOKだな。奏を待たせるのも悪いし、そろそろ行くか。」

玄関に行くと、奏がフィリップさんと楽しそうに話していた。

奏は僕に気付くと、笑顔でこっちに来た。

奏は緑を基調としたワンピースを着ていた。

奏「瑛人ちゃん！準備は出来た？」

瑛「ああ、OKだ。」

説明が遅れたが、彼女は照井 かなで 奏。

照井 竜さんと亜希子さんの娘で、同い年の幼馴染、おまけに僕の仕事のパートナーである。

俗に言う腐れ縁と言うやつだ。

ちなみに、奏は僕の事を“瑛人ちゃん”と呼ぶが僕自身としては、この歳になると流石に“瑛人ちゃん”は恥ずかしいので、以前呼び方を変えて欲しいと言うと、雨に打たれた猫の様な表情をしながら「ダメなの？」

と言うので最早諦めた。

奏「じゃあ行こっ」

瑛「ああ。」

フィ「気を付けてね。」

こうして僕達は、ハードボイルダーで鳴海探偵事務所を出発した。

?????

?????side)

?「……もつとだ!!もつとチカラを!!」

？「朝っぱらから一人で何言ってるんだ？」

？「左慈か・・・ガイアメモリの首尾はどうだ？」

左「ガイアメモリは俺の管轄じゃねえからな。于吉に聞いてみん

于「呼びましたか？左慈。」

左「うわっ！早いな于吉。」

于「もちろんです。左慈のためならたとえ火の中・水の中！！・・・
って私に何か用ですか？」

左「ああ実はん

于「まさかっ！？左慈が私に愛の告白を！？どうしましょう、まだ
体の準備が出来ていないのに。」

左「ちげーよ！！　っていつか何だよ体の準備って！」

于「それはもちろん私と左慈の初夜の準備

左「ふざけんな！」

于吉に回し蹴りをする左慈。

于「ゴフツ　ああ、これが左慈の愛の形なんですな。」

左「んなわけねーだろ！」

？「・・・冗談はそれ位にしておけ。于吉よ、ガイアメモリの首尾はどうなっている？」

于「ガイアメモリですか？それなら完ぺきですよ。」

？「そうか、そいつは良かった。」

左「しかし、あんたもやる事がエグいな。」

？「その策に乗ったのはお前等だろ？それよりも頼むぞ。」

左「ああ、任せな！倒してやるぜ。北郷 一刀、そして仮面ライダーWをな？」

于「必ず血祭りにしてあげますよ。」

？「さあ、ネオ・ガイインパクト計画の始まりだ。」

聖フランチェスカ学園

〈瑛人side〉

そんなこんなで歴史資料館前の駐車場までやってきて来た。

瑛「さて、じゃあ調査を始めるか。」

奏「うん」

僕達は歴史資料館に入って調査しようとしたその時。

【ドカーン！！！！】

いきなり空から何か落ちて来て砂煙が上がった。砂煙が晴れると、そこには金髪の少年がいた。

瑛「君は誰だ!？」

僕は空から降って来た少年に疑いで聞く。

探偵の勘なのか、彼が一刀の失踪に関わっている様な気がした。

左「・・・・・・・・・・・・・・・・」

少年は僕の質問に答えずにある物を出した。

奏「っ！！それはガイアメモリ！」

そう 彼はガイアメモリを取り出した。しかも、僕達が知らないガイアメモリだった。

左「・・・・・・・・・・フッ」

【コネクト】

少年は不気味に笑うと謎のガイアメモリを近くにいた男性に投げつけた。

男「うわああー！」

男性はドーパントになるかと思った。しかし、

奏「・・・なっ何あれ！」

瑛「ドーパント・・・なのか？」

そこに居たのはドーパントとは言い難くまるでブラックホールの様な物があった。

すると突然、ブラックホールの様な物は周りの物を吸い込みだして行く。

僕達も踏ん張るが、徐々に吸い込まれて行く。

瑛「っ！！・・・奏えええー！」

奏「瑛人ちゃああーん！」

僕は必死に奏の手を掴んだが、ブラックホールの様な物に吸い込まれてしまった。

左「・・・・・・ようこそ、外史へ。」

少年が初めて喋った言葉を最後に、僕は幼馴染の手の温もりを感じながら意識を失って行った。

第1話 「Sの思惑／異世界への扉」（後書き）

第1話はどうでしょうか？

できれば、感想くれるとありがたいです。

今回登場した、コネクトメモリはオリジナルです。

ぶっちゃけ今回しか出ませんが一応、設定を書いておきます。

今回はオリキャラの設定を書きます。

コネクトメモリ

「接続の記憶」を持つメモリ。

使用者の全エネルギーを使い異世界への道を作る。全エネルギーを使うので当然使用者は死亡する。それと同時に自動的にメモリブレイクされるので、基本的に使い捨て用。

オリキャラ紹介 (前書き)

少し遅れましたが、オリキャラ紹介です。

若干ネタバレがあります。

オリキャラ紹介

オリキャラ紹介

名前：左 瑛人^{あきと}

髪の色：茶色

髪型：翔太郎と同じ

目の色：黒

好きな物：コーヒー・風麵のラーメン・推理小説

嫌いな物：ピーマン・推理小説のオチを言われる事・暗い所

人物像：翔太郎と違い普段から冷静な性格。

ただし、一定の条件で性格が破綻する時がある。

翔太郎の言動に呆れる事もあるが、基本的には心から尊敬している。言動には出していないが幼馴染の奏の事を大切に思っている。

三年前の誕生日に一人前の探偵である証として黒の帽子とダブルドラバー・ボディサイドのガイアメモリをもらった。

名前：照井 奏^{かなで}

髪の色：黒

髪型：腰まであるストレート

目の色：黒

好きな物：瑛人・フィリップの手伝い・食べ物

嫌いな物：瑛人の事が嫌いな人・コーヒー

人物像：瑛人と同い年の照井家の長女。

のほほんとしている性格で大体の語尾に“ ”がつく。

瑛人の事が好きだが、まだきちんと伝えていない。

父親と同様に特殊体質を持っている。

なお、母親直伝の必殺スリッパも会得しているが滅多に使わない。

幼少期は何故か父親でも母親でもなく、フィリップになついた。

その所為か三年前の瑛人の誕生日に瑛人の相棒になり、フィリップからメモリガジェットとソウルサイドのガイアメモリをもらった。

名前：照井 辰也^{たじや}

髪の色：黒

髪型：竜と同じ

目の色：黒

好きな物：奏・ハードボイルド・翔太郎・ココア

嫌いな物：瑛人・フィリップ・コーヒー・辛い物

人物像：奏より3歳年上の照井家の長男。

翔太郎に憧れているが竜のコネにより警察官になった。

性格はとても翔太郎に似ていて、フィリップ曰く「劣化版翔太郎」。

また重度のブラコンで奏を溺愛しているため奏といつも一緒にいる瑛人と奏がなついているフィリップをあまり良く思っていない。

しかし基本は良い人。

6年前に竜からアクセラドライバーとアクセラメモリをもらった。

オリキャラ紹介

(後書き)

辰也君は当分は出てきませんが、基本的にギャグキャラです。(^

^)

エターナルも出てくる予定です。

オリキャラは全員きちんと名前の由来がありますがそれは今後の本編で書いていきます。

作者は亀更新なので、気長にお待ちください(ーー；)

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n9153y/>

仮面ライダーW×真・恋姫†無双 ~新たなる探偵と恋姫達~

2011年12月14日00時52分発行